

文部科学省は来年から、東海・東南海・南海地震の発生後に富士山が噴火する危険性を探る研究に着手する。過去には、これら巨大地震の発生後に大噴火が起きたことがあり、複合災害の可能性を見極め、地域の防災に生かすのが狙いだ。

三つの地震はいずれもマグニチュード8級の巨大地震。今後30年以内に50〜87%の確率で発生するとされ、太平洋沿岸地域の甚大な被害が心配

## 巨大地震あれば 富士山噴火する？

されている。1707年の宝永年間には、3地震が同時に起きた1か月半後に富士山が大噴火を起こし、当時の江戸の町にも火山灰が降った。

### 文科省が研究へ

3地震は日本列島がのる陸のプレート(板状の岩盤)の下に海のプレートが潜り込んで起きる。最近の研究で富士山の噴火を起こすマグマの供

給源は、海のプレート側にあることが分かっていた。富士山の最後の噴火から約3000年が経過、地下に相当量のマグマがたまっていると考えられる。巨大地震でマグマだまりが刺激を受け、噴火につながる恐れもある。同省の計画は、地震波の伝わり方からマグマだまりやプレートの形と位置を正確に把握し、地震発生でプレート周辺のひずみが変わ化した時のマグマの性質や動きを計算する。